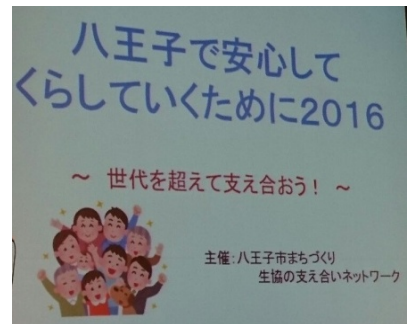


八王子で安心してくらししていくために2016 ～世代を超えて支え合おう！～

日時：2017年 1月30日（月）13：30～16：00
 会場：クリエイティブホール 5階 ホール
 参加人数：76名（事務局含む）
 参加生協：コープみらい、パルシステム東京、東都生協、自然派
 くらぶ生協、八王子保健生協、東京都生協連
 主催：八王子市まちづくり 生協の支え合いネットワーク



各団体の報告



司会：池田あきさん
（コープみらい）



あいさつ：秋山純さん
（東京都生協連）

高齢者、子育て世代、老若男女、すべての市民が世代を超えて支え合い、安心してくらししていくためにはどんな暮らし方をすればよいのか？ そのためにはどんな活動が必要か？地域の多様な取り組みを伺い、私たちにどんなことが出来るのか、みんなで考え合ってみました。

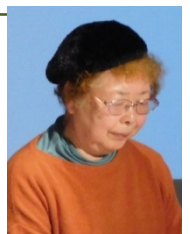


●「八王子の生活支援サービス」八王子保健生協：大久保孝彦さん

地域包括ケアとは、住まいを基本として、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らせるよう、医療と介護そして介護予防・生活支援が切れ目なく提供できる地域での体制。八王子では、要支援1・2の方が対象の介護予防と生活支援のための新しい総合事業が始まった。新しい総合事業には通所型と訪問型がある。訪問型は住民主体による支援で、2016年11月から5か所で行われている。10年後には75歳以上の方が50%以上増えるので介護サービスを受けたくても受けられない人が出てくる。生協は相互扶助の組織。この「おたがいさま」を活用して新しい総合事業に取り組んではどうか。地域包括ケアは高齢者だけが対象ではない。

●「空家から始まったたまり場『協同の家・大原さんち』」東京西部保健生協：横井妙子さん

作家「大原富枝さん」が住んでいた家が高知県本山町に寄贈され、空家になっていたのを2012年に医療生協の組合員さんの紹介で借りられることになり、高齢者のたまり場作りが始まる。本山町との窓口と鍵の管理を東京西部保健生協が行い、組合員5名で杉並区の「きずなサロン」事業の委託を受ける。当初はボランティアが見つからず、自分たちで庭や家の整備を行った。コープ共済地域ささえあい助成を活用し、建物を改修したことで、明るく広くなり、ころばん体操にも使えるようになった。台所も保健所の許可を得られるように改装した。年1回、区からの助成金を利用して寄席を行ったり、福祉生協連の助成金や社会福祉協議会の運営費用を利用し、講演会なども行っている。杉並区の保健所や警察署なども講演会の会場として利用している。4年を経て、大原さんちまつりで利用団体の交流が実現。さらに多くの団体の参加を目指したい。



●「みんなの憩いの場『Café かじやしき』」八王子保健生協：椎野詠子さん

住民主体による小規模多機能拠点のひとつとしてはちせい事業所拠点のほぼ中心部にある空家を借り、地元の地名を使って「Cafe かじやしき」と命名。2016年10月に常設サロンとしてオープンした。「地域のみなさま」というチラシを作成し、町会に回覧して案内を出した。見学会には100名以上の方が参加された。意外にも男性の参加が多く、朝から夕方までいらっしゃることもある。ボランティアとして登録している方は28名いる。いきいきらいふの会（家事支援）の拠点も併設。かじやしきを拠点として発展させていきたい。



●「はちおうじ子ども食堂」八王子保健生協 城山病院：工藤裕子さん、創価大学：千葉晴美さん

「子ども食堂」とは、「栄養のある食事の提供」ができ、「安心できる居場所作り」「子どもを見守る地域作り」である。神奈川県で、ホームレスの見守りをライフワークとしている創価大学の先生のもとで学ぶ学生たちが、貧困問題に関心を持っていた工藤さんと出会い、一緒に活動するようになった。子ども食堂は毎月第2土曜日の午後開催される。この他、月に2回無料塾へおにぎりを届ける支援もしている。食材は地元の農家から低価格で譲ってもらったり、フードバンクや生協からの支援もある。学生が中心なので、担い手の継承が課題のひとつ。子ども食堂を、参加人数の多い少ないに関わらず、楽しく心地いい場所にしたいと考えている。

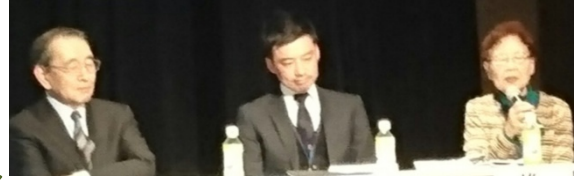


ディスカッション



コーディネーター：齋藤健一さん
(高齢者あんしん相談センター高尾)

4つの団体から報告を聞いた後、会場のみなさんから質問を出していただき、それをもとにディスカッションを行いました。予想以上に多くの質問が出され、みなさんの関心の高さが伺えました。



Q：「Cafe かじやしき」の食事の用意はどのようにしているのですか？足りなくなることもありますか？

A：ランチは予約制で、参加者と一緒に作ります。予想以上に参加者が多く、食材が足りなくなってしまうときは、近所の農家さんに買いに行ったり、自宅から持ち寄ったりしています。また、参加者の方が食材を持って来てくださることもあります。

Q：参加者は定着していますか？

A：週3回の開催に毎回参加して下さる方もいます。

Q：「大原さんち」のボランティアの方は有償ですか？

A：ボランティアは無償ですが、ポイント制で、ポイントがたまると金券に変えてもらうことができます。



Q：「はちおう子ども食堂」の開催の告知（広報）はどのようにしているのですか？

A：最初は、学童などへチラシを配布していましたが、今は八王子市のフェイスブックで宣伝してもらったり、メンバーがツイッターやHP、ブログなどでお知らせしています。また、参加者の口コミでも広がっています。

Q：学生さんはいずれ卒業されてしまうと思いますが、担い手作りに向けて工夫していることなどありますか？

A：子ども食堂は、学生にとっても魅力的な活動の場所になっているので、ゼミの先生を通して無理のない範囲で引き継いでいけるようにしています。

Q：子ども食堂の参加者の顔ぶれは？

A：8割くらいの方がリピーター。あとは、お友だちに誘われてきてくださる方もいます。多い時は、大人と子どもと合わせて50名くらいになることもあります。

Q：ボランティアの方は何人くらいですか？

A：運営に関わっているのは10名くらいで当日の調理スタッフは20名前後です。学生以外に、地域の方や生協の方にも手伝ってもらっています。

～アンケートより抜粋～

- 人と人とのつながり、コミュニティの重要性を改めて考えさせられました。
- 高齢になってからの居場所作り、仲間作りはその後の人生にとってとても大事な事だと思います。身近なところでこういう場所が作られていると知り、嬉しくなりました。
- 自分の置かれている立場を地域の中という広い視点から見つめ直す機会になりました。今出来る事ひとつひとつを実行していきたいと思いました。
- 地域でサロンを始めましたが、参加者は少なく、残念に思っていますが続けていこうと思います。
- 八王子市の取り組みが生協から行政や社協、大学や地域住民を少しずつ巻き込んで一歩ずつ目指すところに進んでいることを知ることができました。
- 学生さんが地域参加することが素晴らしい。前向きに頑張っていて欲しい。
- 八王子市内でも様々な地域支援活動があることを知りました。現場に合わせた仕組みやオペレーションを作ることと合わせ、その中で働いたり、参加したりする人々とハートが大切なことを改めて認識しました。

